

2017 年度 第一内科卒業試験（2017 年 9 月 8 日、金、13 時～、90 分）

* 解答はすべての問題において、a～e の中より選んで答えなさい

【スライド問題】

1. 食道内視鏡画像を示す。正しいものを 2 つ選べ。
 - a. 右の画像はヨード染色後の内視鏡画像である
 - b. 右の画像はインジゴカルミン散布による内視鏡像である
 - c. 右の画像は NBI 観察による内視鏡像である
 - d. 考えられる診断は食道扁平上皮癌である
 - e. 考えられる診断はバレット食道癌である
2. 18 歳女性。関節の腫脹と発熱のため整形外科に紹介入院となった。腹痛と下痢を認めたため消化器内科紹介となり大腸内視鏡検査を施行した。大腸内視鏡検査にて上行結腸にスライドに示す所見を認めた。誤っているものを 2 つ選べ。
 - a. 生検病理では乾酪壊死を伴う肉芽腫を認めることが多い
 - b. 小腸に病変を合併することがある
 - c. 発癌の予防のため大腸全摘術が検討される
 - d. 胃の病変として竹節状変化を認めることが多い
 - e. 肛門病変の合併が多い
3. 65 歳男性。検診目的で上部消化管内視鏡検査を受けた。上部消化管内視鏡検査にて食道にスライドに示す所見を認めた。正しいものを 2 つ選べ。
 - a. 長期の胃酸の逆流が原因となる
 - b. つかえ感などの通過障害の症状で発見されることが多い
 - c. アルコール多飲が原因となる
 - d. 若年で癌化する症例が多い
 - e. 病態の原因検索のためには造影 CT が有用である
4. スライド参照
5. スライド参照

6. 69 歳男性。膵腫瘍の増大を指摘されて来院した。3 年前の人間ドックで初めて径 15mm の膵腫瘍を指摘され、経過観察とされていたが、その後医療機関を受診していなかった。今回、人間ドックで腫瘍の増大を指摘され紹介されて受診した。体温 36.2°C、脈拍 72/分、整。血圧 132/80mmHg。呼吸数 12/分。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛を認めない。血液所見：赤血球 402 万、Hb14.0g/dL、Ht43%、白血球 6800、血小板 19 万。血液生化学所見：総蛋白 7.0g/dL、アルブミン 4.0g/dL、総ビリルビン 0.8mg/dL、AST23U/L、ALT22U/L、ALP213U/L、 γ -GTP17U/L (基準~50)、アミラーゼ 42U/L (基準 37~160)、血糖 98mg/dL。CRP0.2mg/dL。腹部造影 CT と MRCP とを別に示す。腹部造影 CT で腫瘍の最大径は 35mm である。適切な手術はどれか。
- 膵全摘術
 - 腫瘍核出術
 - 膵鉤部切除術
 - 嚢胞小腸吻合術
 - 膵頭十二指腸切除術
7. 76 歳男性。発熱と右季肋部痛とを主訴に来院した。昨日から右季肋部痛が出現し、今朝まで持続している。体温 38.1°C。血圧 124/86 mmHg。眼球結膜に黄染を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。右季肋部に圧痛を認める。血液所見：白血球 17600。血液生化学所見：総ビリルビン 6.9mg/dL、直接ビリルビン 4.2 mg/dL、AST371U/L、ALT297U/L、ALP513U/L (基準 115~359)、 γ -GTP237U/L (基準~50)、アミラーゼ 52U/L (基準 37~160)。CRP16mg/dL。腹部超音波検査で胆嚢壁に異常を認めない。CT を別に示す。適切な対応を 2 つ選べ。
- 抗菌薬投与
 - 経口胆石溶解薬投与
 - 膵頭十二指腸切除術
 - 内視鏡的胆道ドレナージ
 - 蛋白分解酵素阻害薬投与
8. 治療薬として適切なものはどれか
- 抗結核療法
 - ST 合剤 (バクタ)
 - カルバペネム系抗生剤
 - ペニシリン大量療法
 - リボ化アムホテリシン B

9. 治療薬として選ばれるものはどれか。2つ選べ

- a. ボルテゾミブ
- b. イマチニブ
- c. ドキソルビシン
- d. 全トランス型レチノイン酸
- e. 副腎皮質ステロイドホルモン

10. まず行うべきことは何か。

- a. 赤血球輸血
- b. 血小板輸血
- c. 広域抗生剤投与
- d. 酸素吸入
- e. 抗真菌剤投与

【一般問題】

1. 食道癌の治療に関する記載で、正しいものを2つ選べ。

- a. 粘膜下層浸潤癌は内視鏡治療の絶対適応である
- b. 日本では食道癌の病理組織は腺癌が多い
- c. 欧米では食道癌の病理組織は腺癌が多い
- d. 食道癌は化学放射線療法が有効であることが多い
- e. 食道扁平上皮癌は高齢の女性に多い

2. 肝硬変で通院中の患者が黒色便を主訴に来院した。まず行うべきことを2つ選べ。

- a. 緊急血液検査
- b. Sengstaken-Blakemore チューブの挿入
- c. 緊急上部消化管内視鏡検査
- d. 腹部血管造影
- e. 緊急株消化管内視鏡検査

3. ヘリコバクターピロリ感染症に関して正しいものを2つ選べ。

- a. 胃癌の原因である
- b. 経口感染が主要感染経路である
- c. 日本では若年者ほど感染率が高い
- d. 抗ウイルス剤にて治療が可能である
- e. 胃 GIST の原因である

4. バレット食道癌に関して正しいものを2つ選べ。
- a. 本邦において減少傾向にある
 - b. ヨード染色法はバレット食道癌の発見に有用である
 - c. 好発部位は食道胃接合部である
 - d. 食道扁平上皮癌と比べて飲酒や喫煙との関連が深いと考えられている
 - e. 粘膜下層剥離術(ESD)は内視鏡治療法の一つである
5. 逆流性食道炎に関して正しいものを2つ選べ。
- a. プロトンポンプ阻害薬が治療に使用される
 - b. カルシウム拮抗薬が治療に使用される
 - c. アンギオテンシンII受容体拮抗薬が治療に使用される
 - d. 亜硝酸剤が治療に使用される
 - e. ヒスタミン H2 受容体拮抗薬が治療に使用される
6. 吐血の原因となる頻度の低い疾患を2つ選べ。
- a. マロリーワイス症候群
 - b. 胃脂肪腫
 - c. 十二指腸潰瘍
 - d. 逆流性食道炎
 - e. 胃底腺ポリープ
7. 食道アカラシアについて誤っているものを2つ選べ。
- a. 診断には食道内圧測定が有用である
 - b. 診断には24時間pHモニタリングが有用である
 - c. 下部食道括約筋の弛緩不全を認める
 - d. 食道癌の発生と関係がある
 - e. プロトンポンプ阻害薬が治療に用いられる
8. 内視鏡下粘膜生検が診断に有用でないものを2つ選べ。
- a. 胃腺腫
 - b. 転移性胃腫瘍
 - c. ヘリコバクターピロリ感染胃炎
 - d. 胃静脈瘤
 - e. 胃癌の病期診断

9. ヘリコバクターピロリ除菌療法が治療に有用である疾患を2つ選べ。

- a. 早期胃癌
- b. 特発性血小板減少性紫斑病
- c. 慢性胃炎
- d. 逆流性食道炎
- e. 進行胃癌

10. 胃癌について正しいのはどれか、2つ選べ。

- a. 隆起の明らかな早期癌をⅠ型という
- b. 早期癌Ⅱ型は2種類に分類される
- c. 早期癌の中ではⅢ型が最も多い
- d. 遠隔転移先の臓器としては脳の頻度が高い
- e. びまん浸潤型の進行癌は未分化型胃癌であることが多い

11. 早期胃癌に関して正しいものを2つ選べ。

- a. リンパ節転移を認めないものを早期胃癌とする
- b. 隆起の高さが2cm未満のものを早期胃癌とする
- c. 深達度が粘膜下層までにとどまるものを早期胃癌とする
- d. 早期胃癌では化学療法が治療法の一つである
- e. 内視鏡治療の絶対適応は2cm未満の分化型粘膜内癌である

12. クロウン病より潰瘍性大腸炎に多い所見、症状はどれか。2つ選べ。

- a. 痔瘻
- b. 大腸癌
- c. 狭窄
- d. 中毒性巨大結腸症
- e. 上部消化管病変

13. 潰瘍性大腸炎に関する記載で正しいのはどれか、2つ選べ。

- a. 膵炎・高アミラーゼ血症を合併する
- b. 炎症は大腸壁の全層に及ぶことが多い
- c. 小腸にも病変を認めることが多い
- d. 内視鏡下生検では類上皮肉芽腫がみられることが特徴である
- e. ステロイドが治療に用いられる

14. 適切な組み合わせはどれか、2つ選べ。
- a. 食道癌・・・・・・・・化学放射線療法
 - b. 大腸癌多発肝転移・・・・・・・・放射線療法
 - c. 胃潰瘍・・・・・・・・カルシウム拮抗薬
 - d. クロウン病・・・・・・・・抗 TNF（腫瘍壊死因子） α 抗体
 - e. 潰瘍性大腸炎・・・・・・・・抗 HER2 抗体
15. 癌の発生と関連が深い疾患を2つ選べ。
- a. 慢性胃炎
 - b. 家族性大腸腺腫症
 - c. 虚血性大腸炎
 - d. 過敏性腸症候群
 - e. 大腸憩室症
16. 正しいのはどれか、2つ選べ。
- a. 正常肝臓では1日に約300mlの胆汁が生成される
 - b. 胆汁酸は肝細胞においてコレステロールから生合成される
 - c. Couinaud 分類では肝臓を8つの垂区域に分ける
 - d. 肝外側区域の静脈血は主に中肝静脈に流入する
 - e. 胆汁酸塩は回腸で約50%が再吸収される
17. 日本におけるC型慢性肝炎について誤っているものを2つ選べ。
- a. 血中ウイルス量は肝炎の進展度合いと相関する
 - b. 直接作用型抗ウイルス薬による治療効果は70%前後である
 - c. 血中 AFP 値が10ng/mlを超えるとそれ以下に比べて肝発癌を生じやすい
 - d. 血小板の低下は肝線維化の進行を示していることが多い
 - e. AST/ALT は1を超えると肝病変の進行例が多い
18. 日本におけるB型肝炎について正しいのはどれか、2つ選べ。
- a. 初発感染かキャリアからの発症かの鑑別にはHBc-IgM 抗体値が有用である
 - b. 若年者のB型急性肝炎ではゲノタイプAが増加している
 - c. 自然経過でHBs 抗原が陰性化することはない
 - d. 核酸アナログ製剤の長期投与によりウイルスの完全排除が期待できる
 - e. ワクチン接種を受けるとHBc 抗体陽性かつHBs 抗体陰性となる

19. Child-Pugh 分類に含まれる項目を 2 つ選べ。
- a. アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
 - b. 血清ビリルビン(Total bilirubin)
 - c. プロトロンビン活性値(PT)
 - d. インドシアニンググリーン 15 分停滞率(ICG R15)
 - e. アルファフェトプロテイン(AFP)
20. 自己免疫性肝炎について誤っているものを 2 つ選べ。
- a. 発症年齢は 20 歳代と 50 歳代を中心に二峰性を示す
 - b. LKM-1 抗体陽性例では若年発症することが多い
 - c. 血清 IgM が高値となる
 - d. 治療は副腎皮質ステロイドが第一選択である
 - e. 適切な治療例の長期生存率は 10 年で 90%を上回る
21. 原発性胆汁性胆管炎について誤っているものを 2 つ選べ。
- a. 男女比は 1 : 8 で圧倒的に女性に多い
 - b. 胆管癌を合併しやすい
 - c. 約 90%の患者で抗ミトコンドリア M2 抗体が陽性である
 - d. ウルソデオキシコール酸内服で多くは予後が良好である
 - e. 肝移植の成績はウイルス性肝炎に比べ不良である
22. Wilson 病について正しいのはどれか、2 つ選べ。
- a. 伴性劣性遺伝である
 - b. 尿中の銅排泄量と重症度は相関しない
 - c. 血清銅は高値となる
 - d. 神経症状では錐体路症状がよくみられる
 - e. 非肝移植例では銅制限食は生涯継続する必要がある
23. 黄疸について誤っているものを 2 つ選べ。
- a. Gilbert 症候群では絶食を続けると血中ビリルビンが上昇する
 - b. Gilbert 症候群では直接型優位のビリルビンが上昇する
 - c. 新生児黄疸では主に抱合型ビリルビンが増加する
 - d. Dubin-Johnson 症候群では黒色肝を呈する
 - e. Crigler-Najjar 症候群では I、II 型ともに新生児期に発症する

24. 脂肪肝に関して正しいのはどれか、2つ選べ。
- a. 腹部超音波検査では肝内脈管の不明瞭化が認められる
 - b. 非アルコール性脂肪性肝疾患では肝硬変に進展しない
 - c. インスリン感受性が低下する
 - d. 腹部単純 CT 検査で CT 値の上昇が認められる
 - e. 血液生化学検査で中性脂肪値が低下する
25. 通常型肝細胞癌を示唆する画像所見として誤っているものを2つ選べ。
- a. 超音波検査で辺縁低エコー帯がみられる
 - b. ソナゾイド造影超音波検査の Kupffer 相で欠損像を呈する
 - c. Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の肝細胞相で高信号を呈する
 - d. 腹部造影 CT では動脈相で濃染し、平衡相で低吸収域を呈する
 - e. 経動脈性門脈造影下 CT では高吸収域を呈する
26. 肝細胞癌について正しいのはどれか、2つ選べ。
- a. 罹患率は女性のほうが男性より高い
 - b. C 型肝炎からの発癌は5割を占める
 - c. B 型肝炎からの発癌は増加傾向にある
 - d. 肝細胞癌は原発性肝癌の約95%を占める
 - e. 非アルコール性脂肪性肝炎からの発癌は増加傾向にある
27. 本邦における生体肝移植について正しいのはどれか、2つ選べ。
- a. ドナーの手術関連死亡例はない
 - b. 血液型不適合症例も行われている
 - c. ドナーの肝切除率が70%を超えてはならない
 - d. 高度脂肪肝でもドナー肝として差し支えない
 - e. HBc 抗体陽性ドナーからの生体肝移植は禁忌である
28. 肝硬変患者のエネルギー栄養状態の評価指標を2つ選べ。
- a. 血清アルブミン濃度
 - b. 非蛋白呼吸商
 - c. 体格指数(BMI)
 - d. %AC(arm circulation)
 - e. 血清分岐鎖アミノ酸/チロシン比(BTR)

29. アルコール性肝障害で正しいのはどれか、2 つ選べ。
- a. 進展に性差はない
 - b. 脂肪肝は約 1 か月の断酒で消失する
 - c. アルコール依存症の 80%がアルコール性肝硬変を発症する
 - d. アルデヒド脱水素酵素のヘテロ欠損では飲酒で顔面紅潮をきたす
 - e. アルコール離脱症候群ではマイナートランキライザーは禁忌である
30. 肝炎ウイルスマーカーについて正しい組み合わせはどれか、2 つ選べ。
- a. HBs 抗原持続陰性化 – B 型肝炎ウイルス駆除
 - b. HBc 抗体陽性 – 感染既往
 - c. HCV 抗体陽性 – 現感染
 - d. HCV-RNA 持続陰性化 – C 型肝炎ウイルス駆除
 - e. IgM 型 HA 抗体陽性 – A 型急性肝炎
31. グリソン鞘内に存在しないものを選べ。
- a. 肝静脈
 - b. 肝動脈
 - c. 門脈
 - d. 胆管
 - e. リンパ管
32. 門脈に流入する血管を 2 つ選べ。
- a. 上腸間膜静脈
 - b. 肝静脈
 - c. 脾静脈
 - d. 左腎静脈
 - e. 内腸骨静脈
33. BT-PABA 試験で活性を調べるのはどの酵素か。
- a. リパーゼ
 - b. キモトリプシン
 - c. アミラーゼ
 - d. エステラーゼ
 - e. ホスフォリパーゼ

34. 急性胆管炎の際に認める Charcot3 徴に含まれないものを 2 つ選べ。

- a. ショック
- b. 発熱
- c. 黄疸
- d. 腹痛
- e. 意識障害

35. IgG4 関連疾患について誤っているものを 2 つ選べ。

- a. 20 歳代に好発する
- b. 病変に線維化を認める
- c. 自己免疫性膵炎は本疾患に含まれない
- d. 病変に IgG4 陽性細胞の浸潤を認める
- e. 治療は副腎皮質ステロイドが第一選択である

36. 先天性胆道拡張症について誤っているものを 2 つ選べ。

- a. 画像検査で拡張した胆管を認める
- b. 膵胆管合流異常を認めることが多い
- c. 肝細胞癌を合併しやすい
- d. 高齢者に好発する
- e. 外科的手術の適応である

37. 胆嚢結石について正しいものを 2 つ選べ。

- a. 肝硬変は黒色石の原因となる
- b. 胆石症痙攣発作の関連痛は左肩甲部にみられる
- c. コレステロール結石が最も多い
- d. 総胆管結石の原因とならない
- e. 中年男性に好発する

38. 急性閉塞性化膿性胆管炎に対する治療で正しいものを選べ。

- a. 胆管ドレナージ
- b. 抗菌薬を用いた保存的加療
- c. 経口胆石溶解剤投与
- d. 体外衝撃波結石破碎療法
- e. 腹腔鏡下胆嚢摘出術

39. 60 歳男性。眼球の黄染に気づき外来を受診した。血液検査では、直接型ビリルビン優位に総ビリルビン、肝胆道系酵素が上昇していた。腹部 CT では下部胆管が閉塞し、それより上流の胆管は拡張していた。考えられる疾患を 2 つ選べ。

- a. 肝細胞癌
- b. 急性肝炎
- c. 乳頭部癌
- d. 原発性胆汁性胆管炎
- e. 膵癌

40. 原発性硬化性胆管炎について正しいものを 2 つ選べ。

- a. ERCP が診断に有用である
- b. 副腎皮質ステロイドが有効である
- c. 女性に多い
- d. 抗ミトコンドリア抗体が診断に有用である
- e. 潰瘍性大腸炎を合併することが多い

41. 慢性膵炎でみられる所見を 2 つ選べ。

- a. 膵液量の増加
- b. 耐糖能異常
- c. 糞便中脂肪量の低下
- d. 膵液中重炭酸濃度の上昇
- e. BT-PABA 試験での尿中 PABA 排泄量の低下

42. 膵臓に腫瘍性病変を認めた。診断に有用な検査を 2 つ選べ。

- a. 超音波内視鏡
- b. 注腸造影検査
- c. 上部消化管内視鏡
- d. 腹部単純 CT
- e. 内視鏡的逆行性膵胆管造影

43. 疾病と腹部診察所見の組み合わせで正しいものを 2 つ選べ。

- a. 胆嚢癌 – Courvoisier 徴候
- b. 急性胆管炎 – Murphy 徴候
- c. 虫垂炎 – Rovsing 徴候
- d. 急性汎発性腹膜炎 – 腸管蠕動低下
- e. 十二指腸潰瘍穿孔 – 肺肝濁音界上昇

44. 膵内分泌腫瘍について正しいものを2つ選べ。
- a. 多発性内分泌腺腫症Ⅰ型が関連する可能性がある
 - b. 外科的治療の適応がある
 - c. 機能性内分泌腫瘍の中では、ガストリノーマが最も多い
 - d. 乏血性腫瘍である
 - e. 膵腫瘍全体の5%を占める
45. 膵外分泌機能不全の際にみられる症状を2つ選べ。
- a. 体重減少
 - b. 発熱
 - c. 腹痛
 - d. 臭いの強い下痢便
 - e. 血便
46. 血小板 1.5 万/ μ l、体幹・四肢に点状出血を認める特発性血小板減少性紫斑病(ITP)の治療として誤っているものを選べ。
- a. ヘリコバクターピロリ菌陽性時の除菌
 - b. 血漿交換
 - c. 副腎皮質ステロイドホルモン
 - d. 脾臓摘出
 - e. 初期治療不応時のトロンボポエチンアゴニスト製剤
47. 27歳、無症状、女性。理学的にも異常なし。赤血球 425 万/ μ l、Hb 9.9 g/dl、Ht 29.8% 、白血球 3800 / μ L、血小板数 14.3 万/ μ L。考えうる疾患を選べ。
- a. 再生不良性貧血
 - b. 骨髓異形成症候群
 - c. 悪性貧血
 - d. 鉄欠乏性貧血
 - e. 自己免疫性溶血性貧血
48. 悪性貧血の検査所見について正しいものを2つ選べ。
- a. 網赤血球低下
 - b. LDH 高値
 - c. 血小板増加
 - d. 末梢血血液像で好中球の左方移動
 - e. 血清フェリチン低下

49. 骨髄異形成症候群(MDS)について、正しいものを2つ選べ。
- a. 80%の症例は急性骨髄性白血病に移行する
 - b. 若年男性に多い
 - c. DNAメチル化阻害剤は有効である
 - d. 分化誘導療法が有効である
 - e. 染色体異常を伴うことが多い
50. びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に通常は用いられない薬剤を2つ選べ。
- a. ビンクリスチン
 - b. ダウノマイシン
 - c. シクロホスファミド
 - d. ブレオマイシン
 - e. リツキシマブ
51. 急性骨髄性白血病(AML)(APLを除く)に関して正しい記載を選べ。
- a. カンジダ感染ハイリスク症例には無菌室が有効である
 - b. 化学療法開始後、好中球数 $200/\text{mm}^3$ 未満の骨髄抑制期に導入したら無菌室に入室する
 - c. 初回治療において白血球数 $100/\text{mm}^3$ 未満になったら、次回治療は延期または減量する
 - d. 骨髄抑制期の発熱性好中球減少には細菌培養の結果を待たずに抗生剤を開始する
 - e. 骨髄抑制期の発熱に対する解熱剤はステロイドが基本である
52. 症候性多発性骨髄腫(IgG型)としてとらえられる所見を2つ選べ。
- a. 血清IgG 7500mg/dl
 - b. ヘモグロビン 8.2g/dl
 - c. 血清アルブミン 3.1g/dl
 - d. 補正血清カルシウム 13.5mg/dl
 - e. 骨髄中形質細胞 50%
53. 慢性骨髄性白血病(慢性期)の治療に最も有効な薬剤を選べ。
- a. インターフェロン
 - b. チロシンキナーゼ阻害剤
 - c. 全トランス型レチノイン酸
 - d. 強力化学療法
 - e. 大量療法併用の自己末梢血幹細胞移植

54. 慢性骨髄性白血病（慢性期）の所見に関して正しい記載を 2 つ選べ。
- a. 好中球 ALP 染色スコアは高値を示す
 - b. 血小板は低値である
 - c. 末梢血に幼若な骨髄球系細胞の出現を認める
 - d. 骨髄中の芽球は 20%～30%程度である
 - e. 末梢血の好塩基球増加を認める
55. 濾胞性リンパ腫の治療の記載で正しい記載を選べ。
- a. リツキシマブの導入により完治率は 80%程度である
 - b. ヘリコバクターピロリ菌の除菌にて半数以上の症例で完全寛解が得られる
 - c. 高腫瘍量で、B 症状を伴う症例では、初回治療から同種移植も念頭に置く必要がある
 - d. 若年者ではシタラビン大量療法が行われる
 - e. 低腫瘍量、Stage IV の症例では無治療経過観察という選択肢がある
56. 多発性骨髄腫について正しい記載を 2 つ選べ。
- a. 原則として全症例が治療適応になる
 - b. 若年者では同種造血幹細胞移植が標準治療である
 - c. 新薬時代になっても完治率は低い
 - d. 染色体異常は強い予後因子になる
 - e. 緩慢な経過をたどり、多くの症例は病初期は全身状態が良好である
57. ホジキンリンパ腫について正しいものを 2 つ選べ。
- a. 持続する発熱は B 症状に含まれる
 - b. 中枢神経や骨髄などの節外病変が多い
 - c. 若年の進行期症例では第一寛解期に自己造血幹細胞移植を行う
 - d. ホジキン細胞は CD30 が陽性である
 - e. 初回治療としては CHOP 療法が標準である
58. HTLV-1 ウイルスおよび成人 T 細胞白血病・リンパ腫(ATL)に関して正しいものを 2 つ選べ。
- a. HTLV-1 ウイルスの主な感染経路は母乳感染である
 - b. HTLV-1 ウイルスのキャリアは、全国で約 10 万人と推定されている
 - c. HTLV-1 ウイルスのキャリアの約 20%が、生涯に ATL を発症する
 - d. ATL 細胞は CD4 陽性が多い
 - e. ATL の診断は血清 HTLV-1 抗体の陽性をもってなされる

59. 慢性リンパ性白血病(CLL)に関して正しい記載を2つ選べ。

- a. 生涯での急性転化率は約70%程度である
- b. 死因は出血または感染症が多い
- c. 治療として同種造血幹細胞移植を積極的に行う
- d. 成熟B細胞リンパ球の増加が特徴である
- e. 染色体異常として9;22転座が高頻度である

60. HIV/AIDSについて正しい記載を2つ選べ。

- a. 未治療感染者からの針刺し事故によるHIVの感染の危険率は約0.3%である
- b. 抗HIV療法にて血漿HIV-RNAが検出限界未満になれば、治療は終了することができる
- c. 抗HIV療法にて血漿HIV-RNAが検出限界未満になれば、他者への感染リスクは極めて低い
- d. 急性HIV感染症の時期での治療介入ができれば完治に導く確率が高い
- e. 血漿HIV-RNAが検出限界未満になれば、CD4リンパ球数が未回復でも感染症の予防治療は不要である